

獨協医科大学埼玉医療センターに

(旧名称：獨協医科大学越谷病院)

新棟オープン!

新たに

「生体腎移植」が2017年12月より 手術開始となります



腎移植外来にて

新規の腎移植

腎移植後フォロー

予約受付中



慢性腎臓病 (CKD) の末期腎不全 (ESKD) で腎移植を選択される患者さんの中には、すでに維持透析をされている方と透析は行わず先行的に腎移植を希望される方がおられます。当院では腎代替療法 (RRT) として腎移植を行う最適な時期を評価し、他科との連携を取りつつ、レシピエント・ドナーともに安全、確実な腎移植を行うように努めてまいります。また、当院では臨床経験豊かな移植認定医が2名常勤していますので、術前の不安や質問などにも細かく対応いたします。

受付
お問い合わせ

 獨協医科大学埼玉医療センター 泌尿器科
(旧名称：獨協医科大学越谷病院) *2017年11月15日より改称

〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷2-1-50

*東武スカイツリーライン (伊勢崎線) 「新越谷」駅、
JR武蔵野線「南越谷」駅より徒歩3分

TEL.048-965-1111 (代表)

慢性腎臓病 (CKD) の腎代替療法 (RRT) として 腎移植について知りましょう!

腎移植は腎不全の状態から回復する治療法です。その特徴やメリットを紹介

腎移植の特徴と現状

日本での腎移植の現状について、ご紹介します。

1 「腎移植」とは

腎移植とは腎臓の機能が低下した人のために、新しい腎臓を手術で移植することによって腎臓の機能を回復させる治療法です。

2 「腎移植のメリット」とは

腎機能が低下した場合の治療法には、「透析療法」と「腎移植」があります。

透析療法には大きく分けて「血液透析」と「腹膜透析」がありますが、いずれも時間的制約が大きいことと腎臓の一部分の役割しか果たさないことが問題です。

一方、腎移植を行うと、失われた腎臓の機能はほぼ完全に回復し、時間に縛られることもなく、食事も自由に食べられます。

3 「腎臓の提供」について

腎移植には、ご家族から腎臓をいただく「生体腎移植」と、亡くなった方からいただく「献腎移植」があります。

4 「生体腎移植」について

腎臓を提供できる方は、ご家族の方（夫婦間も含む）で自らの意思で腎臓の提供を希望されている方となります。腎臓を片側提供するので、腎臓の機能が正常であることや健康体であることが必要となります。

日本移植学会の倫理指針では、生体腎移植は親族からの提供に限るとされており、親族とは、6親等以内の血族、3親等以内の姻族と定義されています。



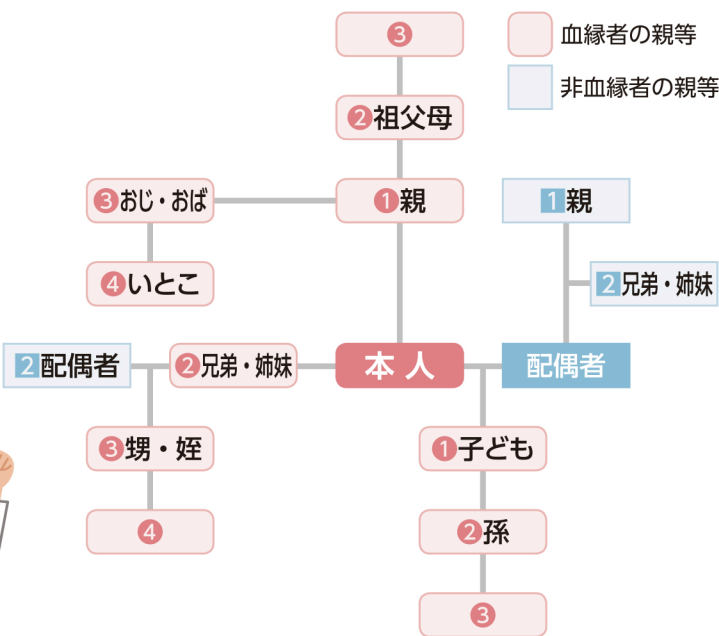
5 「献腎移植」について

献腎移植とは、亡くなられた方から腎臓を提供していただく移植のことです。献腎移植には、心臓死からの移植と脳死からの移植があります。献腎移植を希望される場合、日本臓器移植ネットワーク (JOTNW) にあらかじめ登録する必要があります。腎臓の提供者が出た場合、登録されている方の中から選択基準に従って候補者が選ばれ、腎臓が移植されます。

献腎移植は生体腎移植と比較し、生着率（移植した腎臓が長持ちする人の割合）はやや劣るのですが、日常生活に十分良好な腎機能を発現することがわかっています。

6 「腎移植」と「透析療法」の違い

透析療法と比較し、本来の腎臓の機能を得られるという点で移植ははるかに優れています。しかし、腎移植の最大の問題点は、腎臓の提供者が極めて少ないということです。



腎移植があります。

わからないことは
おたずねください

治療の疑問や不安、移植後の生活など、
お気軽にご相談ください



します。

「腎移植」がとくに優れている点

腎移植後の生活について、さまざまなメリットがあります。

1 食事は特に制限はありません

腎移植の場合、食事に関しては一般の健康的な食事（低塩、低脂肪）であれば、特に制限はありません。一方、透析療法の場合、カリウム、リン、塩分などの厳しい制限が必要になります。特にカリウム（果物、生野菜に多く含まれる）を多く取ってしまうと、血液中のカリウム濃度が上昇し、重篤な不整脈が起こり、ときに心臓が停止してしまうこともあります。



2 飲水も制限はありません

腎移植では制限なく飲水可能ですが、透析療法では尿が出ないため1日500～700mlの飲水に制限されます。

3 通院時間が短くすみます

腎移植では通常、月に1度の通院ですみますが、血液透析の場合は週に3回、透析病院に通院する必要があります。1カ月にすると50時間以上を透析病院で過ごすことになります。学業や仕事がある場合、透析では大きな障害になることが多いのが現状です。



4 5年生存率は約97%です

おおむね腎移植のほうが、透析療法より長生きできることがわかっています。最近の報告では、腎移植を受けられたすべての患者さんの5年生存率（移植してから5年以上生存している割合）は約97.2%(*)であるのに対し、透析患者さんの5年生存率は約60%(**)でした。

*：[2016臓器移植ファクトブック]より
**：一般社団法人日本透析医学会統計調査委員会「わが国の慢性透析療法の現況」2015年末集計より

5 合併症の多くは改善します

透析療法では、長期透析に伴い様々な合併症が出現するのに対し、腎移植では透析に伴う合併症の多くは改善します。

6 医療費について

透析、腎移植ともに医療費はそのほとんどが公費で賄われており、患者さんの自己負担には大きな違いはありません。しかし、実際に要する医療費は、透析療法ではおおよそ月額40万～50万円、腎移植では月額15万円です。このように医療経済的にも腎移植は優れています。

7 お子さんの成長に期待

小児期から透析療法を行っているため尿毒症のため身長が伸びません。腎移植では、お子さんの身長が伸びることが期待できます。腎不全のお子さんには、発育を考慮し、適切な時期に腎移植を行ってあげることが必要です。



当院の腎代替療法・腎移植の特徴

腎代替療法は、自ら選ぶ時代です。しっかりとご検討ください。

1 「慢性腎臓病 (CKD)」の末期腎不全 (ESKD) に対し、最善の治療を選択できます

じん機能が悪化しESKDともなると、腎代替療法(RRT)が必要となります。このRRTは、腎移植と透析療法の2つから選択可能です。しかし、腎移植を希望する場合、移植認定医が在籍する移植施設に改めて紹介を受けて受診する必要があります。当院には移植認定医が2名常勤しており、院内で安心してRRTを選択することができます。



2 新棟・最新設備の手術室での手術を行います

生体腎移植は、ドナー（提供者）およびレシピエント（患者）の手術を、ほぼ同時並行で行います。ドナーは、内視鏡による後腹膜鏡下腎採取術を行います。傷が小さいため、術後の痛みが少なく、術後の回復が早いことが特徴です。レシピエントの手術は、腎臓は原則として右側の骨盤の中（腸骨窩）に移植します。いずれの手術も迅速かつ丁寧にいきます。

3 免震構造の特別な手術室で実施します

腎移植を行う手術室は、床全体が免震装置となっています。万一、手術中に大地震が発生しても、揺れを大幅に低減し、手術台の激しい揺れや医療機器の転倒を防ぎ、揺れが収束したあとの手術の継続が可能です。

4 腎移植手術は保険適用で受けられます

生体腎移植、献腎移植ともに健康保険が適用されています。そのため加入されている保険の種類や年齢にもよりますが、1～3割の自己負担となります。さらに1カ月の医療費の自己負担分が一定額を超えた場合は、高額医療費として超過分が健康保険より支給されます。さらに特定疾病療養費制度や更生医療制度もあります。

5 熟練した移植認定医が移植手術にあたります

当院には、日本移植学会および日本臨床腎移植学会認定の移植認定医2名が在籍。万全の体制で移植手術および移植術後フォローに当たります。

ご予約について

外来予約につきましては、通常の予約診療と同様に総合医療相談部（連携部門）へご連絡いただき、ご予約をお取りいただけますようお願いいたします。

*FAX予約用紙は、総合医療相談部のホームページからダウンロードできます。

<http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-k/k-sogo/policy.html>

※お急ぎの場合 → 泌尿器科外来 TEL.048-965-1111 (代表)

※通常のご予約 → 総合医療相談部 (医療連携部門) TEL.048-965-1147 FAX.048-967-4666



受付
お問い合わせ

 **獨協医科大学埼玉医療センター 泌尿器科**
(旧名称：獨協医科大学越谷病院) *2017年11月15日より改称

〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷2-1-50

*東武スカイツリーライン (伊勢崎線)「新越谷」駅、
JR武蔵野線「南越谷」駅より徒歩3分

TEL.048-965-1111 (代表)